

教えて！あなたの好きな弘大図書館 FAVORITE LIBRARY

いつも図書館に来てくれる学生さんたち、普段どんな風に図書館で過ごしているの？
スタッフはものすごく気になる！ざっくばらんにおしゃべりしてみたい！…ということで、
図書館のお気に入りの場所・もの・コトをテーマに学生さんと図書館スタッフの座談会を企画してみました。
『豊泉』No.56 本誌は抜粋した内容ですが、こちらでフルバージョンをお楽しみいただけます。



人文社会科学部 4年
若松有希さん
好きな本は 川上弘美
『私の好きな季語』



教育学部 4年
互野初美さん
好きな本は
川上弘美 『三度目の恋』



図書館スタッフ 丸山
好きな本は
小川系
『食堂かたつむり』



理工学部 4年
熊本宏樹さん
好きな本は
太宰治 『斜陽』



農学生命科学部 4年
瀧野佑子さん
好きな本は
森見登美彦 『夜行』



図書館スタッフ 須田
好きな本は 荻野弘之
『奴隷の哲学者エピソード
クテス 人生の授業』

須田：この座談会のテーマは「My Favorite Library」ということで、図書館のお気に入りの場所、もの、コトとか、サービスについてざっくばらんに教えてもらいたいな、と思っています。

◇—どういう時に図書館に来る？—◇

須田：皆さんは、どういう時に図書館に来ますか？最初にざっくりとお話ししてもらえますか？

若松：私が図書館に来る時は、勉強がマジでやばい時(笑)。勉強する場所をころころ変えるんで、家で勉強して学校で勉強して、とかっていう流れで図書館に来て勉強します。あとは新聞を読みたい時に来ます。自分の就活の時に一番使ったんですけど、それこそ時事ものだったりとか、あと自分の志望が新聞社だったのでとにかく新聞を読まなきゃ、っていう時に、図書館には東北の基本的な新聞が入っているので、照らし合

わせて読み比べるとか、そういう時に来ました。

須田：わあ、うれしい。まさしくそういう使い方をしていただければいいな～、ということで図書館ではあんなにたくさんの種類をそろえているので。

若松：狙いどおりにいきました(笑)？

須田：はいっ！ありがとうございます！

互野：私は、まずは勉強したい時に来るといのがすごく強いです。私、ここで勉強するって決めたらそこにずっといたいタイプなので、何時間でも…開いてから閉まるまでずっといいんだよっていう図書館の空間がすごいありがたいです。あとは新しい本とか話題になっている本を、いち早く取り入れて新着コーナーに置いていただいているので、それを借りにいくのが楽しみなんですけど、そういう本っていつも予約がいっぱいなので(笑)、まだかな～とワクワクしながら空いている展示スペースを眺めるってのも結構好きです。

須田：直木賞コーナーとか、並べているけど全部借り

られていてね(苦笑)。

丸山:結構きれいに棚が空ですよ(笑)。

須田:そう、展示する意味があるのかって言う…

若松:もはや…(笑)。

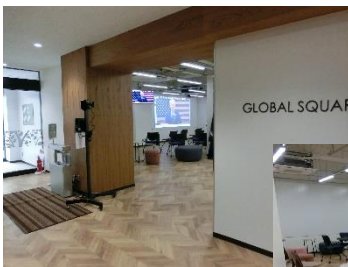
丸山:図書館の宿命というか。でもそういうのがあるよって、分かるだけでも展示の意味はあるかな。

熊本:自分は基本、何もなくても図書館に来るタイプ。朝起きてすることないからとりあえず図書館に来て、本を探して開いて読む感じで…目的なく。家にいるより図書館にいる方が多いんじゃないかな。だいたい図書館にいればやることのできるの。勉強もできるし本も読めるし、雑誌も結構多くあるので雑誌チェックしたり、という風に時間を使っています。

須田:館内探すとだいたい熊本さんいるもんね。

熊本:はい、そこらへんにいます(笑)。

瀧野:みんなすごく立派な使い方をしてる(笑)。私いつも家で勉強する時は寝ながらやるんですね。だから勉強目的でここには来ないんですけど、じゃ何やるかっていると、図書館の匂いを嗅ぎに来る(笑)。匂いが好きで、最近ここ(アカデミック・コモンズ)のスペースができて、その雰囲気が好きなんです。視覚情報として目に入ると癒されるんですね、この空間自体が。本当に虚無になった時にグローバル・スクエアの英語(BBC ワールドニュース)が流れるところの丸いふかふかの椅子のところにドンって腰かけてるのが好きなんです。



須田:あの、一番大きい椅子?

瀧野:そうです、一番大きい。ずっと英語の放送を見る…半分くらい理解できないけど(笑)。ずっ〜と見て、

「へえ〜」ってやるのが好きですね。

若松:そこにいることが目的、みたいな。

瀧野:そうそうそう。

須田:ここを作る時にワーキングという形で職員も携わったんですけど、色々こだわってコンセプトとかデザインとかを決めたので、こういう感想が聞けてすごくうれしい。雰囲気が好き、と言っただけのものは何よりのご褒美です、私にとって。

若松:グローバル・スクエアとか、ふらっと入っていきやすい感じですよ。

◇—図書館のお気に入りスポットは?—◇

須田:ちょうど今、次の話題としてお気に入りのスポットを聞こうと思ってたんです。図書館の中でここが好き〜っていう場所がありますか?一番好きなどころ選ぶとしたら。

丸山:瀧野さんはグローバル・スクエア?

瀧野:そうですね、一番好きなのはグローバル・スクエアですね。一番大きい丸い椅子を隅のところにガツて置いて、机をね、前の方に持ってきて、そこでぼ〜っとしたりして…。

須田:あれ気づくと隅っこの壁にくっついてるんだよね(笑)

瀧野:それ私かもしれないっ!

須田:くっつけて使いたいのだろうな〜、背もたれがないからかな〜、と思っていたけど、じゃあ壁によりかかって快適に使っていただけてるんですね。

瀧野:そう、ちょうどいい感じで。そこにたまに友達が「たきの〜ん♪」って言って来て、隣にくっつけて座って。

須田:くっついてる、くっついてる(笑)。

瀧野:私かもしれないですね(笑)。

丸山:なんかそういうちょっとした出会い…「久しぶり〜」とか会える場所になっているのいいですね。

須田:あそこは図書館の中でもしゃべっていいところですからね。そういう風にワイワイしてもらってるんですね。

丸山:今日も久しぶりに学生さんがワイワイおしゃべり



して、にぎやかでいいな~と思って。

須田:夏休みは寂しかったですからね。シ〜ンとしてるな、って。

若松:席が空いていて座りやすかったです(笑)

須田:若松さんはいかがですか?

若松:私は2階の第1書庫…コンピューター置いているところから入る場所、あの辺が好きです。

丸山:本がぎっしり入ってるところが?

若松:はいはい、スポットと言えるか分からないけど。

須田:あのあたりが局地的に好きとか?扉をギィ〜って開ける感じが?

若松:本とか参考文献とか探しにあそこに入って探さんですけど、そうすると、だいたいどこ見たって本じゃないですか。図書館なんてだいたいそうだと思うんで



すけど、あそこは特に人のいる場所がすごく狭くて、本当に「ほ〜〜〜んっ」って感じのところが好き。瀧野さんが「図書館の匂いが好き」って言っていたけど、私は書庫の匂いが好きです。本の匂い、紙の匂い

ってというか、インクの匂いってというか。だから参考文献探しに行ったはずなのに、全然関係ない自分の専門分野でもない本を借りて帰っちゃうっていう。

丸山:思わぬ出会いがあるんですね。

若松:すごい楽しいです。

互野:私は、グローバル・スクエアの奥まったところ、(多読の本に)囲まれてるところが好きです。別に英語

ができるとかそういう訳ではないんですけど、あそこにいるとコーヒーの匂いがしてきて…コーヒーも飲めるわけじゃない



んですけど、コーヒーの匂いがする中で勉強ができるのがすごくうれしくて、あそこに居座っています。

須田:去年のリニューアルオープンで、リフレッシュ・スペースでコーヒーを無料提供していた時ですね。…ね、熊本さん?

熊本:自分、コーヒー作ってました(笑)。

若松:え?そうなんですか?

須田:彼がアルバイトでやってくれたんです。いつもだいたい図書館にいてくれるので、急にシフトの人が来れない時とかも入ってくれて。さっきまで利用者だったのに突然フラッシュモブ的にエプロンして出てきて、コーヒーを作ってくれるという…。

若松:かっこいい!

瀧野:いつもありがと〜。

互野:そうやって、コーヒーの匂いが保たれていたんですね。

丸山:コーヒーのアロマはいいですね、落ち着くし集中力も上がるし。

熊本:自分も基本、グローバル・スクエアにいるんですけど、雑誌の書庫も結構好きで、バックナンバーを昔のほうからぎ〜と目を通してみようかな、と。バックナンバーだと自分ではもう買えないというか、探せないし、流通していないけど、だいたい好きな雑誌のバックナンバーがそろっているので、それを読みなおしたりして。人もあんまり来ないし、結構落ち着くので。

丸山:普通バックナンバーは買えないですからね。

熊本:そうですね。

須田:確かに、図書館には本屋さんでは買えない雑誌も結構あるのでね。

◇—人に教えたくない穴場スポットは?—◇

須田:じゃあ、次の話題で、人に教えたくない穴場スポットは?

丸山:えっ…教えたくないのに教えろと?(笑)

須田:ええ(笑)、なので教えたくない場合は、紙面には載せませんから私たちだけにこっそりと(笑)。あの場所の何番目のあの席が、とかね。いらっしゃるんですよ、例えば××××××の…

丸山:ああ、××××××のところですよ。

瀧野:まさにそこですっ、私!

若松:言おうと思ってました!

須田:え、みんなそこ好きなの?なんで?

若松: 静かだし暗いし誰もいないし

瀧野: 夏行くと涼しいんですよ。あと、木が目の前にあって景色が見えるので、四季を感じられるっていうのが。秋は本当にきれい、紅葉とか…冬は真っ白で。

若松: 冬は行ったことない(笑)

瀧野: あ、寒いよね。

須田: よくあそこに座ってる方がいるな～とは思ってたけど、じゃ、たまたま同じ方に会っていたというだけで、意外とあそこは入れ代わり立ち代わり皆さん座っているってことですね。へえ～そうなんだ。……………これって、やっぱり教えないほうがいいのかな(笑)。

一同:(笑)

丸山: 写真1枚だけ載せておきましょうか、場所は書かないで。

須田: じゃ、「実は皆さんに教えたくない穴場スポット…探してみよう」ということで。

若松: どうしようっ、今度行ったらすごい人がいたりして(笑)…「あ～、ここかあ～」みたいな。



↑皆さんのお気に入り
さて、ここは一体どこ
でしょうか？

須田: 探してくれるかな？

瀧野: 楽しいかもしれない(笑)。

丸山: この図書館は個室がな

いから、人がいないところで1人でやりたい、となったらそういうところがね。

若松: 怖いくらい静かだよな。

丸山: 私はオープンテラスも推しておきますね。パラソルも立ててるんで、天気いい時は外に出られますよ。

須田: 私のおすすめスポットは1階のこぎんざしパネルのある席の椅子。気持ちいいでしょ？

若松: ふっかふかですよ。初めて座った時びっくりしました。あまりに沈むから、ふ～って(笑)。

須田: あれは、赤ちゃんがお母さんのおなかにいた時をイメージして包まれるような気持ちで座ってほしい、ということで開発されたらしいですよ。

丸山: 私は1年生向けのガイダンスのとき、あの椅子のこと必ず紹介しています！

須田: 多分この図書館の中で一番座り心地がいい椅

子じゃないかな。

丸山: あそこはペアワークをするために作られた席ですよ。

須田: そう…なんだけどペアワークするにはちょっと狭いのかな、とも思ったりする。実はあそこってグループワークしていいエリアなんですよ。(現在は感染症対策で1人学習エリアとして運用)



若松: え? そうなんですか? 知らなかった。

須田: 2階は完全なサイレントエリアなんですけど、実は1階は、どうぞペアワークしてください、っていう風に作ったんですよ。

若松: だからあの形なんですよ。知らなかった～。

須田: なかなか伝わってない証拠ですね～(苦笑)。

丸山: 一応、利用案内だとサイレントエリアは2階っていうふうに色分けはしてるんですけどね。

須田: 利用者アンケートでは、「新聞めくる音が気になる」っておっしゃる方もいるんで、「う～ん、そうか～。」って…。図書館を改修する時には、私たちがアンケートとかで寄せられた声を参考にしつつ、例えばこのペアワークできるスペースにしても、こういう風にしたら喜んでももらえるんじゃないかな、と思って形にしていた部分があるんですけど、でも実際にこんな風に学生さんとおしゃべりする機会とかって今まであまりなかったので、思い違いだったりする部分もあったり、「え? そういう使い方の方が好きなの?」とかいうことも結構あるんですよ。実際に使われ始めてからそういうのがありますね。でも、「思ったのとは違う使い方だけど、なんかそれもいいんじゃない?」みたいなこともたくさんあるんで、柔軟に対応していこうとは思ってます。

丸山: こんな風に意見を聞く機会がもっとあればいいんですけどね～。

若松: 私は、新聞は新聞架から持ち出してリーディング・ルームで読んでます。あそこで読むとページをめくる音も BBC の音にまじっているからあまり気にならないし、ちゃんと広げて読めるし、私あそこでゆったりと読んでます(笑)。

須田: そうそう、新聞を(新聞用閲覧席が立って読むタイプなので)立って読まなきゃいけないのはきつい、というご意見もあって、図書館としては必ずその席で読んでください、という意味ではなくて、階段の上り口にある大きなテーブルで読んでる方もいらっしゃるんですよ。利用後に元の場所に返してくれればそれで…ということで、最近はそんな風にご案内してますね。

若松: 新聞、大きいから堂々と開ける場所が、私にとってはあそこなんです。

丸山: テーブル大きくていいですね。

若松: バックナンバー読む時もあるところにたくさん積んで、携えて読んでました。



須田: 作業テーブルみたいなのがあまりないよね…最近、そう思う。グローバル・スクエアで、テーブル付きの椅子に新聞を置いて作業している学生さんを見て、「そうだね、フレキシブルに使える大きなテーブルがあればいいんだよね。」と思ったことが。それはオープンしてみても皆さんの使い方を見て気づいたこと。

若松: あったらうれしいですね、今は使わないかもしれないけど。たぶん2年生の時とかだったらグループで活動する時が結構あったから。

◇—「いいな」と思う図書館の取り組みは?—◇

須田: では次のテーマで、「いいな」と思う図書館のサービスや取り組みなど、何かあれば…。スタッフとしては、ドキドキしますね(笑)。

若松: 私はホワイトボードが結構うれしい。自分はいまだに大人気で図書館を利用するってことがないので、超個人的なんですけど、ホワイトボードの壁に今日のToDoを書いたり、2階のアクティブ・ラーニング・エリアにも真正面にホワイトボードがある



ので、あれをすごい活用する。

須田: 頭の中をアウトプットするのに手っ取り早く使える?

若松: そうそう。

丸山: ただの仕切りじゃなく(笑)使ってもらえてよかった!

須田: 互野さんはどうですか?

互野: 私、POP コンテストがすごく好きで。

須田: そうですよ、受賞者受賞者♪

若松: え? 受賞者なんですか!?

互野: はい。まだまだ「こんなの描いたよ〜」と言えるようなものは作ってないんですけど、いつの間にかシール貼ってもらって、いつの間にか自分も好きな本を紹介できるし、図書カードももらえるし(笑)。最近は応募作品も増えたから、「あ、こんな本あったんだ」というのが分かるので、あのコーナー自体もすごく好きです。



須田: 新刊書だけでなく昔の本とかも掘り出してくれますからね、皆さん。私たちはここで働いているけど、すべての蔵書を把握しているわけではないので、「こんな本があるんだな〜」と発見できるっていうか。やっぱり人が変わると選ぶ本も違うし。やっぱりこれは今後も続けないといけませんね、丸山さん。

丸山: はい、私、担当者です、頑張ります!

若松: 応募はしないけど、シール貼るのは楽しい。2階にあがってすぐに見えるじゃないですか。これもいいな、あ〜これもいいな〜って。

須田: その日によって違うんですね。私たちは毎日ここに来るので、昨日はこれがいいと思ったけど今日はこっちがいいと思うな〜、と貼ってみたり。シールは1日1回、何回でも貼れるんでね。その日のコンディション

ってというか、食べ物と同じ感じで、ある日はカレーが食べたい、次の日はラーメンが食べたくなくて、また次の日はイタリアン…、でも今日はおにぎりかな、とかそういう感じで、日によって惹かれるものが違う気がします。

瀧野：私は、インターネットのサービスがいいと思います。例えば借りてる本の延長とか、図書館まで来なくてもパソコンとかスマホからできるっていうのが。

丸山：My Library のサービスですね。

瀧野：そうです、そうです。お恥ずかしいことに、図書館サポーターになってから知ったんですね。

須田：意外と知らない人も多いですよ。

瀧野：そう、意外と知らない人もいて、友達に「どうやったら延長できるんだっけ〜?」とか聞かれたりした時は「これできるよ」ってドヤ顔しながら教えたりして(笑)。そうできるぐらいサービスの質が高いっていうのがあるがたいっていうのと…あと、Twitter も好きです。

丸山：あっ、うれしい!

瀧野：新着図書の情報とか、あと豆知識的な内容が話されてて、「あ、それはみんな絶対知りたいよ」って思って「いいね」します。

丸山：皆さん Twitter ぜひよろしくお願ひいたします。



@HirosakiUnivLib

須田：やっぱり図書館だけのツイートよりも、インフルエンサーがリツイートしてくれたり「いいね」してくれたりするとすごく影響が強くなって感じしますよね。

丸山：生協さんが「いいね」してくれたり、リツイートしてくれたりすると、伝わってるんだな〜とか、そこからさらに友達から伝わっていくんだろうな、と思うんですよ。

須田：リニューアルした時に珈琲研究会さんが結構図書館の Twitter をリツイートしてくれましたね。

熊本：はい。そうですね。

若松：私、たぶん瀧野さんがリツイートか「いいね」して

たやつを見てたんだと思う。図書館のはフォローしてないけど、見たことある。

瀧野：図書館サポーターのブログ記事とかリツイートしてましたね。

須田：そうやってみんながリツイートしてくれると…

丸山：広まりますよね〜。ちなみに生協さんの Twitter、フォローしてる人は?あ、皆さん。お弁当の情報とかのっていいですよ♪

須田：わりとインプレッションが高いものは生協さんがリツイートしてくれてたりするんですよ。

丸山：熊本さんはどうですか?

熊本：Book Hunting、自分は参加したことはないんですけど、あそこにある本を読むことは結構多くて、新しい本とか。多分誰かがまとめてこのへん選んだのかな、ていうのが分かって、映画がまとめてあったり、いつだったかは押井守さんの5冊くらいあって、そういうの見ながら「自分もやってみればよかったな〜」と思います。で、そこから色々まとめて同じジャンルを3冊くらいとってみたいるので、読むほうも楽しいです。

須田：誰かが「いいよ」って言ったものとか、誰かがリツイートしたり「いいね」したりしたものだと、自分もチャレンジしてみようかな、とかそういう影響で広まってるんですね。

丸山：POP コンテストもそうですけど、他の人がいいなって思った本から次に自分が読みたい本を選んだりというのは結構ある感じですね。他に誰のオススメの本を見たい、とかありますか?

若松：自分の先生が選んだ本ならちょっと面白いかもしれない。

丸山：それは影響力が大きいですね。

若松：自分の先生から聞く本ってどうしても学術書とか参考になる本とかメインだけど、学術書じゃなくて小説とかあったら面白いと思う。先生どんな本読むんだろ〜ってちょっとワクワクします。

瀧野：学外でも大人の人、できればなんですけど会社の重役の人とか、「こういうのに影響受けたんですよ」というのはちょっと見てみたい。一般的な大人の人が何を読んでいるのか、ていうか。本屋とあまり変わらない

かもしれないんですけど、なんだろうな～会社の重役みたいな影響力持っている人が何を読んでいるのかは気になります。

丸山:『豊泉』の「本との出会いを楽しむ」のコーナー読んだことありますか？前は弘前大学を卒業された公認会計士の方だったし、以前には同じく卒業生で IT 企業の社長さんされている方にも書いてもらったり。

瀧野:すごいな～。

須田:あと中学校の先生。教職大学院に在籍していた現役の中学校の先生とか、弘前大学にゆかりのある方で学外の大人の人に書いてもらうことがわりと最近多いですね。

丸山:じゃ、この方向で引き続きいろんな方をお願いしていきましょう。今回の『豊泉』No.56 も職業人というか…とある専門職の方なので。

若松:前回の公認会計士の方が書かれた記事、面白かったです。本はまだ読んでいないけどすごく興味がわきました。

須田:『人事屋が書いた経理の本』ってのですね。

若松:そうです。それに興味がわいたきっかけがちゃんと書いてあって、すごい面白いと思って読んでいました。

丸山:就職してからも色々本を読まないといけないですからね。皆さんいろんな本を読んでいるんだな～と思いましたね。

◇—自分なりの図書館の活用方法は？—◇

丸山:じゃあ、次の話題にいきましょう。

須田:「こういう使い方するとすごくいいよ」っていうのを後輩さんたちにもし教えるとすれば？

瀧野:私の周りの人は暇になったらみんなゲーセンに行くんですけど(笑)、「暇になったら図書館で散歩してみるといいよ」って最近私言うんです。やっぱり「本との出会い」っていうのがあって、ここ(雑誌棟)の2階、新しい自習室の本棚の奥の方に、芸術系の本がたくさん置いてあって、最近立ち寄った時に、動画編集から現代美術までいろんなものがあって、面白くて全部読んじゃったんですよ。

須田:大型本のコーナーかな？

瀧野:あ、そうそう。あそこらへんの。芸術系でいったら



私は音楽が好きなんですけど、美術系にも興味が湧いてとても楽しかったので、散歩する気持ちであそこに寄ってみたいんじゃないかな。

須田:「図書館で散歩」って、今すごくいいフレーズをいただきましたね！

丸山:意外な出会いがあったりしますからね。私、結構鉱物とか宝石とか見るの好きです。図鑑でキラキラ～ってしたやつとか見ると結構癒されます。

須田:個人じゃ買えないですからね、美術全集とか。私は個人的な趣味で、イギリスの航空写真集みたいなのが見ましたよ。空中散歩のような。

若松:クイズ番組とかでやってる「上からとった航空写真を見てこの世界遺産は何でしょう？」みたいな？

須田:あ～。それに近かったかも。森の中の宮殿とか城とか、「ほ～」って見てました。

若松:私は館内をぐるぐるします。最初はグローバル・スクエアで資料みて作業したりとかして、飽きたな～と思ったら上に移動して別の作業して、また飽きたな～と思ったらまた移動して、気分にあわせて時間ごとに場所を変えて過ごすのが好きです。場所によって様子が違うじゃないですか。

丸山:にぎやかだったり、楽しそうだったり、し～んと静まり返って集中、みたいな。

若松:雰囲気結構違うので、気分にあわせて場所を変えて、それこそ1日中過ごして、という方法でここを使っています。

丸山:活用してもらってるみたいで…ありがとうございます！

◇—図書館でこんなことできたらいいな—◇

須田:じゃあ、図書館でこんなことができたらいいな、というのを聞いてみたいんですが…。

若松:私、読書会やってみたいです。

須田・丸山:わあ〜!まさしく最近、やってみたいねって話をしていたんです!

若松:私、卒業論文で八戸の読書会サークルの研究をしていて、もともと自分でもオンラインで読書会を開くくらい読書会が好きで。でも大学ってそういうところあまりないなって。文芸部とかあればやってるのかな。そういう場所ってあまりないなって思って。でもサークルを立ち上げようにもコロナで人が集まってっていうのが難しいというのもあるって、さんざん挫折してきたんですけど、そういうのを図書館主催とかでできたら楽しいかなって。いろんな本の紹介をする場所・きっかけみたいな話があったと思うんですけど、それを読書会でできたら面白いのかな、と思っています。

須田:実は私たち、二人ともこの職業でありながら実際はやったことがないので、まずは試しにサークル的に二人でやってみようか、なんてちょうどそんな話になってたんです。

若松:私も授業で読書会をやっていたので、そういう場所があったらいいな、って思いました。ぜひ、お願いします。

須田:じゃあ、まずはサークル的にやってみるので、その辺でチラシとか見かけたら、「あ〜、やるんだなあ〜」って来てね(笑)

丸山:私は「昨日と違う図書館」っていうのが私の目標で、「毎日違う図書館」。実際、昨日と同じ図書館はない訳で、本は常に入れ替わって行ってますし、季節感があったり、新しい出会いとか驚きがあったり…昨日とは違う何かがある場所・昨日と違う何かを期待してくる場所であつたらいいな、と思うんです。

須田:「何はなくてもとにかく図書館に」「とりあえず来てみた」と、そういう人が増えると嬉しいんですね。

丸山:図書館に来たらなんかあるだろう、みたいなの。

須田:セレンディピティというか…偶然、たまたま図書館でみかけた「昨日までと違う何か」、この本・このニュースとか、あの人があんなことやってたから…とか、そういうことが起きる場所に。だってリピーターが来る理由ってそういうことじゃないですか。テーマパークと

かね…限定グッズ・限定ドリンクとか、新しいのだから「買わなきゃ」とか。

若松:今このパレードやってるから行かなきゃ、みたいな。

丸山:他にアイデアとかありますか?こんなコラボしてほしい、とか。

熊本:太宰をもっと推してほしいです。早稲田大学は村上春樹ライブラリーとか、規模がでかくて、レコード置いたり私物置いたりしていて、それぐらいの規模でもっと太宰もコーナーとして推してくれたらな、と。



丸山:太宰治研究文庫とかもっと推してもいいのに、わりと隅っこにコソツとありますからね。

須田:太宰を好きな方があそこを見ると、本当に感動されてますよね。この前商談に来られた業者の方も個人的に好きだということで、ご案内したら喜んで見てらっしゃいました。

丸山:少し前に東京の大学にいる方が、太宰の研究しているので来てみました、という方もいらっしゃったので、もっと推すべきですね!

◇—終わりに—◇

須田:今日、こうやってお話を聞いて、皆さんは総じて、それぞれのエリアでそれぞれの機能をすごく活用してくれているんだな〜というのが分かって、それだけでも私は今日嬉しくて、大満足です。いろんな使い方があるから、一人一人の使い方があっていいんだよ、というのが、これからもっともって伝わればいいですね。勉強するだけじゃないし、くつろぎに来てもいいし、とにかくぼ〜っとするだけでもいいし、そんなみんなを受け止められる図書館になりたい、と思います。

丸山:実施している企画とか設備とかサービスとか、おおむね好意的に受け止められているというのが分かりましたし、こういうのがあつたらいいな、というのも教えてもらったし、大変楽しかったです。